



輝城

甲府市立城南中学校

学校だより

No. 12

H.31.3.22

文責 保坂正樹



学校評価より



今年度の城南中学校の教育活動の学校評価について報告いたします。「教職員の自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」をもとに、職員会議などで改善策を話し合いました。また、2月27日に行われた学校評議員会で話し合われた「学校関係者評価」についても併せて載せさせていただきます。

教職員自己評価より

○・・・よかった点 ●・・・改善点

1 学校経営について

- 数値がすべてにおいて高く、学校教育目標を理解し、目的達成に向けた取り組みが行われている。
- 校務分掌に偏りがある。
- 学級懇談の機会が少なく、参加も少ない。

2 学校運営について

- すべての項目の数値が昨年度より向上した。
- 「報告・連絡・相談の徹底」の項目の評価が低かった。
- 学級懇談の機会が少なく、参加も少ない。



3 教育課程について

- 「授業時数確保」の項目が昨年度より向上している。
- 学校行事等の準備期間が少し短い。

4 学習指導について

- 先生方が授業改善についての意識が高まり、たくさんの課題に向かって取り組んでいる。
- 支援が必要な生徒が多く、組織について見直す必要がある。

5 生徒指導について

- 学年内では十分に情報交換はできていた。
- 学年ごとの若干の方針の違いを感じる。
- 教師自身が時間に厳しい姿勢をとったり、言語環境を考えた言動をとることが大切である。
- 不登校生徒への対応について考える必要がある。

6 家庭・地域との連携について

- 学校だより、学年・学級通信などで学校の様子を保護者や地域に発信していることについての評価は高い。
- 「家庭学習」の習慣化していない。家庭学習の定着については、大きな課題である。

7 学校の特色について

- 朝読書については高い評価を得ている。
- 合唱やふれあい集会、ロードレースなどの行事におおむね高い評価をしている。
- 清掃活動・あいさつにもっと力を入れていきたい。

8 多忙化改善・教育環境整備の取り組み

- 仕事量が多く、業務が改善されている実感がない。
- 持ち帰りの業務が増えてきている。
- 教育効果を上げるのに十分な予算がない。



生徒のアンケートより

- あなたは交通ルール（自転車のヘルメット等）を守って登下校している。
- 学校の授業には、生徒が自主的に考える場面がある。
- 学校行事（修学旅行・林間学校・輝城祭等）が充実している。
- 学級の係活動や生徒会活動にしっかり取り組んでいる。
- あなたは友達や先生・来校者にあいさつを良くしている。
- 学校では、将来の進路について学習したり、情報を知ることができる。
- あなたは宿題のほかにも自主的に家庭学習している。
- あなたは家庭で家族と学校での様子を話している。
- 部活動は楽しく充実している。

29年度 → 30年度

(99.6% → 99.7%)

(98.0% → 97.3%)

(97.0% → 97.1%)

(96.6% → 97.2%)

(97.1% → 96.8%)

(96.2% → 96.5%)

(69.0% → 63.0%)

(78.5% → 77.5%)

(85.6% → 83.4%)

保護者のアンケートより

- 生徒は交通ルール（自転車のヘルメット等）を守って安全に登下校している。 (98.8%→99.2%)
- 学校行事（修学旅行・林間学校・輝城祭等）は楽しく充実している。 (97.7%→96.6%)
- PTA活動は活発に行われている。 (93.4%→94.2%)
- 生徒は友達と仲良く助け合って生活している。 (95.2%→94.1%)
- 生徒会活動や委員会活動は、活発に機能している。 (94.8%→93.8%)
- 生徒は宿題のほかにも自主的に家庭学習している。 (58.3%→56.2%)
- 生徒は忘れ物をしないで意欲的に学習している。 (75.9%→74.2%)
- 授業は生徒にとってわかりやすい。 (79.0%→76.4%)



改善策など

1 学校経営について

- できる限り職員が納得できる人事配置となるよう努力する。

2 学校運営について

- 管理職一学年主任一学年職員の伝達機能を確実に行之、「報・連・相」を徹底する。
- PTA活動への参加啓発について、学校とPTA理事会とで連携して取組を工夫する。

3 教育課程について

- 道徳の教科化に伴い、確実に授業時数を確保するため、全校一斉の時間設定とする。
- 各行事の準備期間や実施時期については、その前後の行事等に関係を考慮して設定していく。
- 学校行事等と関連した教科横断的な内容を各教科の指導計画に位置づける。

4 学習指導について

- 「見通しと振り返り」、「課題や場の設定」を工夫した授業実践を継続して取り組む。
- 校内研究で継続的に実践を積み上げていく。
- 個別の支援計画などを作成と共有の方法を検討するとともに、合理的配慮に必要な体制づくりを進めていく。
- 「特別な教科道徳」共同研究で指導案づくりを行う。

5 生徒指導について

- 優先順位を考慮して情報共有を行う。
- 不登校対策会議や学年会議等組織で担任を支える体制を継続していく。
- 教師の権威的な言葉や荒ぶる言葉はどれも不快なので十分に注意する。

6 家庭・地域との連携について

- 家庭学習については「生活学習ノート」の採用が、効果があったが、活用の方法を考えていく。また、小学校家庭との連携について具体的手立てを考えていく。
- 保護者・地域への情報発信の手立てを考えていく。

7 学校の特色について

- 「ふれあい集会」は、講師との渉外、調整は経験値が必要であり、今年度発足した「福祉推進委員会」を継続発展させる。
- 清掃活動の質の向上を考えていく。

8 多忙化改善・教育環境整備の取り組み

- 限られた予算の有効活用を考える。
- きずなの日の趣旨を再確認し、有効活用する。
- 多忙化改善の取り組みについては、課題を確認し、改善への意識を持って具体的に取り組む。

学校関係者評価

Q 不登校の未然防止・早期対応策は？

A 生活ノートによる生徒理解、学級経営の質の向上のためQU検査を2回実施。生徒支援室の運営を充実させる。

Q いじめの現状はどうか？

いじめがあるのは事実。からかい半分が延長していじめのように発展するケースもあり、その都度解決に努めている。また、いじめ調査も実施し、早期発見に取り組んでいる。

Q 現在、校地内で危険な場所はあるか？

A 市教委も危険個所を確認している。プールの土手側の壁に亀裂が入っているが、今年度末に改修工事を行う。

Q 携帯・スマホの持参について今後どう考えていくか？

A 基本的には今までの指導と変わらない。特例で扱ったケースは過去にもあった。市教委と連携して取り組む。

意見

- ・四大文化は同列ではない。合唱と応援は発表。挨拶と清掃は習慣、これこそ家庭・地域との連携が必要である。見る視点を変えていけば、子どもの意識も変わってくる。質も違うし、取組も違って来る。
- ・校長の話にあった「情報の発信」の仕方が大切である。PTA理事会・学級懇談会で直接話をしていくことが必要であるし、何を話題にするかも大事である。
- ・携帯、スマホのトラブルは携帯、スマホを8～9割持っている現状を考えると、使い方を含め、取り組む必要がある。親への啓蒙も必要である。